

かちゅうらい ぶらい

令和3年7月発行
加賀田中学校図書室

するどくも 夏の来たるを感じつつ 雨後の小庭の 土の香をかぐ

いしかわたくぼく
石川啄木(1886~1912)の作品。

生活から生まれる悲しみなどの身近な感情をわかりやすい言葉で感傷的に表現した歌人。

はっきりと、夏になったなあと感じながら雨上がりの後の、ぬれた庭の
土の匂いをかいでみると、いっそうそれが実感となってくるのだ。

初句の「するどくも」は、はっきり夏がきたなあという実感を表現。小庭の「小」は接頭語。

(藤森徳秋、『学習 俳句・短歌歳時記7 夏の名歌百選』、国土社、1991)

夏休み貸出がはじまります。
7/7(水)からは 5冊 借りることができます。
返却期限は9/3(金)です。
今、借りている本がある人は、一度返してから 貸出手続きをして
くださいね。



7月	としよしつかレンダー						2021年 かちゅう
月	火	水	木	金	土	日	
		30	1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	25	
26	27	28	29	30	31		

第67回 読書感想文コンクール

課題図書を紹介 中学校の部

「with you ウイズ・ユー」



濱野 京子 作 くもん出版

母親の介護にかかわる「ヤングケアラー」の少女・朱音に恋をした中学生の悠人。「誰かをたいせつに思うこと」を描いたものがたり。

ヤングケアラーって？疑問に思ったあなたにぜひ読んでもらいたい一冊です。

「アーニャは、きっと来る」



マイケル・モーパーゴ作 佐藤見果夢 訳 評論社

第二次世界大戦中のフランスの村。羊飼いの少年ジョーは、ユダヤ人の子どもの亡命を助けることになって…。やがて、村中をまき込んでおおがかりな計画がたてられた。村人たちが命がけで守りぬいたものは…？

戦争は、誰にも幸せをもたらさない。

「牧野 富太郎 日本植物学の父」



清水洋美 文 里見和彦 絵 汐文社

学歴はなくても誰にも負けない情熱がある！日本全国の野山をかけめぐり、数多くの新種を発見・命名した牧野富太郎の人生。

小学校二年で中退の学歴ながら東京大学に出入りし、研究に私財をなげうち、びんぼうぐらしに家族をまき込んで、富太郎は植物学を手につかんで離さなかった。